

平成30年度

教養ゼミ（初年次教育科目）

実施状況報告書



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

目 次

経済学部 経済学科	1
経済学部 国際経済学科	3
経済学部 税務会計学科	4
人間文化学部 人間文化学科	6
人間文化学部 心理学科	7
人間文化学部 メディア・映像学科	8
工学部 スマートシステム学科	9
工学部 建築学科	10
工学部 情報工学科	11
工学部 機械システム工学科	12
生命工学部 生物工学科	20
生命工学部 生命栄養科学科	22
生命工学部 海洋生物科学科	24
薬学部	26

経済学部 経済学科

■ 担当者氏名

(代表) 早川達二

吉田卓史、石丸敬二、高羅ひとみ、中村和裕、三川敦、高阪勇毅、藤本倫史

■ ゼミ数, ゼミの学生数

平成 30 年度新入生 200 名を学生番号順に 7 クラスに分割した。1 クラスあたり 20~30 人であった。

■ 実施内容

担当教員がそれぞれの独自性を発揮しつつ概ね計画通り実施した。シラバスは教員によって若干異なるものの、大学生活へのオリエンテーション(学び、目標)、本の読み方、講義の取り組み方、図書館の利用方法、履修指導、コースの説明(2年次選択のための参考として)などはほぼ共通して扱われた。

具体的には、以下のような内容があった。

- ・ 円滑な大学生活を送るために必要な知識や情報を得る
- ・ 図書館で本を借りる
- ・ 研究倫理に関する説明
- ・ 自己紹介
- ・ 大学と高校の違いを考える
- ・ 福山大学の施設について学ぶ
- ・ 大学生活を設計(1年間の目標)
- ・ 講義の受講方法
- ・ 一般 Web 検索と論文検索の違いを学ぶ
- ・ レポートの作成とプレゼン発表
- ・ コース選択の説明

■ 教養ゼミの特徴

初年次教育として「教養ゼミ」は、高校から大学への学習環境をスムーズに移行するための学習スキルを身につけて学習意欲の向上にも効果を挙げている。円滑な大学生活を送るために必要な知識や情報を得ることを重視する。また、意見交換の場として、教員とゼミ仲間とのグループディスカッションやプレゼンテーションなどを通じて、課題の探求力と社会の中で絆をつくるための自己表現力やコミュニケーション力を養っている。学生への連絡事項伝達の場としても貴重な時間である。

■ 成果

平成 30 年度経済学科で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

- ・ 大学生活の過ごし方を考えるきっかけとなった
- ・ 学生間の情報共有の場としても教養ゼミは有効であり、学生同士の交流の機会が増えた
- ・ 図書館や他の大学施設に利用方法について学ぶ機会となった
- ・ クラスごとにレポートの作成やプレゼン発表を行うことにより、今後の学習や就職後にも役立つ一般技能の基礎を身に付けることができた

■ 課題

担当教員からは教養ゼミの課題として以下のような意見があった。

- ・ なんとなく大学に来たという学生のやる気を出すことは難しく、欠席しがちな学生を改善させることが出来なかった。その様な学生への対策を考えていきたい。
- ・ 1クラスあたりの人数が多く、今後はクラスを増やして1クラスあたり学生数を減らした方が良い
- ・ 学生の発言の機会を増やす試みが必要

経済学部 国際経済学科

■ 担当者氏名

(代表)萩野覚、イアンビセット、藤本浩由

■ ゼミの学生数

33名（うち留学生10名）

■ 実施内容

- ・大学における学修の方法(図書館の利用法等)
- ・プレゼンテーションの仕方やプレゼンテーション資料作成方法
- ・国際経済学科各教員による講義
- ・海外研修プログラムの紹介
- ・トップ10プログラムの紹介
- ・長期留学について(ブルガリア・中国)の紹介
- ・オープンキャンパスプレゼンテーション作成(日本人学生)
- ・三蔵祭プレゼンテーション資料作成、同資料を英訳し英語でプレゼンテーション

■ 教養ゼミの成果等

- ・プレゼンテーションの仕方やプレゼンテーション資料作成方法を学修した
- ・英語力が向上した

■ 問題点、改善点及び対応策

- ・三蔵祭プレゼン資料は、もう少し中身の濃い内容にしたかった。
- ・留学生についても三蔵祭プレゼン・ポスター展示に積極的に参加させるべきであった。

経済学部 税務会計学科

■ 担当者氏名

小林正和

■ ゼミ数, ゼミの学生数

税務会計学科所属の平成 30 年度新入生 34 名を 1 クラスとしている。

■ 実施内容

担当教員がそれぞれの独自性を発揮しつつ概ね計画通り実施した。シラバスは教務委員が設定し、学科会議によって承認を得たものを実施した。内容は概ね以下の通りである。

- 大学生活へのオリエンテーション(学び、目標)
- 図書館の利用方法
- 履修指導
- 大学生活に必要なソーシャル・スキル講義
- 本の読み方, 講義の取り組み方, アカデミック・ライティング
- 税務会計学科の専門科目に関する紹介
- コースおよびゼミの説明(2年次選択のための参考として)

■ 教養ゼミの特徴

初年次教育としての教養ゼミは、高校から大学への学習環境をスムーズに移行するための学習スキルを身につけ、学習意欲を向上させることを目的としている。その上で、円滑な大学生活を送るために必要な知識や情報を得る方法を学ぶことを重視し、情報検索、アカデミック・ライティング、アサーションなどの能力を養うための講義を行う。また、就学意欲および日常生活で問題を抱えていないかを確認するなど、学生と教員とのコミュニケーションおよび連絡事項伝達の場として重要な機能をもつ。

■ 成果

平成 30 年度税務会計学科で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

- ・ 学生と教員間でメール連絡を頻繁に行うことにより、欠席指導がすみやかに行われた。さらに欠席が多い学生の保護者に連絡をして、出席を促している。
- ・ 課外活動(学生団体, サークルによる文化祭参加など)やバイトなどを行っている学生を教員が知り、学生とのコミュニケーションを向上させることができた。
- ・ アカデミック・ライティング, ソーシャル・スキル講義により、大学での学びへとスムーズに移行することができた。

■ 課題

平成 30 年度税務会計学科で実施した教養ゼミの課題は以下のとおりである。

- ・ 授業を欠席しがちな学生への働きかけについては、できる限り本人や保護者との懇談を通じて行ったが、1 名が病気となり、後期休学となった。
- ・ 34 人という人数は1名の代表(担任)教員が管理するにはぎりぎりの人数である。教員 1 名につき 20 人

程度が望ましいのではないかと考える。

- ・ 授業内で学生が積極的に発言することができるよう、ゼミ内で発言を促す機会をより増やす必要がある。
- ・ 1年間を通して、一人の担任が受けもったが、2年後半から始まる新3年ゼミ生の募集に際しては今後税務会計学科の教員を知る必要がある。そのため来年度はオムニバス形式のゼミを行う必要があると考える。
- ・ キャリア開発を早期に開始させるため、ゼミ内でもキャリア教育を行うことを検討する必要がある。この点は就職課や3, 4年生との協力を模索することが望まれる。

人間文化学部 人間文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 重迫 隆司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

全1年次生 53名

■ 授業のねらい

- (1)1年生全員が教員全員と顔を合わせる。
- (2)学生全員がお互いに交流を深める。
- (3)大学における学修への動機付けを高める。
- (4)卒業時の到達目標を明確化することで、自分に自信を持つ。

■ 学修の到達目標

大学生として必要なコミュニケーション能力の基礎となる力を身につける。

*コミュニケーション能力の基礎となる力: 聴く力、話題に参加する力、質問する力、自分の言葉で自信を持って発表(プレゼンテーション)する力など。

■ 実施内容

- 第1回(4/12)〈授業ガイダンス〉〈全教員〉
- 第2回(4/19)〈図書館ガイダンス/保健管理ガイダンス〉〈全教員〉
- 第3回(4/26)〈保健管理ガイダンス/図書館ガイダンス〉〈全教員〉
- 第4回(5/10)〈人間文化学科で学ぶということ〉〈重迫+小原〉
- 第5回(5/17)〈地理歴史教育〉〈小原+柳川〉
- 第6回(5/24)〈「本物」を見る、「本物」に触る〉〈柳川+重迫〉
- 第7回(5/31)〈物語の力〉〈青木+原〉
- 第8回(6/7)〈本について語る〉〈原+村上〉
- 第9回(6/14)〈ヨーロッパの歴史と文化〉〈村上+脇〉
- 第10回(6/21)〈デートDV 講座〉〈全教員〉
- 第11回(6/28)〈言葉をめぐる冒険〉〈脇+青木〉
- 第12回(7/5)〈プレゼン準備〉〈脇+学生サポーター〉
- 第13回(7/12)〈プレゼン①〉〈脇+学生サポーター〉:「〈今〉と〈これから〉の自己紹介」(4分)
- 第14回(7/19)〈プレゼン②〉〈全教員〉*第13回~第15回の「ベストプレゼン賞」
- 第15回(7/26)〈プレゼン③〉〈全教員〉 を学生および教員の投票で決定。

■ 教養ゼミの成果

毎時間の学生コメント、最後のプレゼンテーションおよびアンケートの結果より、全員が到達目標に達したことを、学生、教員とも確認した。

■ 問題点, 改善点, 対応策

開講曜日を木曜 5 時限に統一し、グループ分けを改善した。プレゼンの準備においては、先輩である学生サポーターの参加により従事したものとなった。来年度も改善点を探る。

人間文化学部 心理学科

■ 担当者氏名

赤澤 淳子, 日下部 典子, 野寺 綾, 山崎 理央

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数4, 各ゼミに15~16名の1年生が所属した。

■ 実施内容

前期

①ピア・サポート訓練(教員+学生サポーター)

主な内容:ピア・サポートとは(自分自身を知ろう, コミュニケーション), 傾聴について(聴き方のロールプレイ, 話し合ってみよう), ストレスへの対処

②プロブレム・ベースド・ラーニング(PBL)(教員+SA)

7~8名のスモールグループで、「大学生活での気になる出来事」についてのプリントを基に, 話し合いを通して課題を見つけ, その解決方法までをまとめた。最後に全体で各グループの発表を実施した。

③新入生歓迎会(2年生主催)

後期

①レポート作成を学ぶ(教員+SA)

考文献の探し方, 引用文献の書き方, レポートの構成などをテキストに基づいて学び, 各自が心理学に関わるテーマを見つけて, レポートの書き方を実習した。

②読書感想文を書く

③その他(福山市保健所による「ゲートキーパー研修」, 29号館案内, 学生相談室案内およびメンタルヘルスについての講義(講師:松本先生), 図書館案内を実施)

■ 教養ゼミの成果

【授業全般】

初回は1年次生全員を対象に, 松田学長による特別講義(「ピア・サポート」という概念の紹介と必要性についての説明)が実施された。その後①ピア・サポート訓練では, 心理学科教員と3, 4年生の学生サポーターが「ピア・サポートをはじめよう」をテキストに, 学生同士がサポートしあうためのスキル(傾聴の基本スキルや質問・伝達スキル)の訓練を行なった。ロールプレイや話し合いを中心とした授業に出席することで, 傾聴やサポートの重要性を経験し, 互いに支えあう関係を築くことができた。また, ②PBLでは5回のスモールグループディスカッションや発表等の活動を通して, グループでの役割, 課題を見つけるところから発表までのプロセスを学び, グループ・ディスカッション・スキルを修得することができた。

後期は, テキストに基づいて, 論文作成の基礎を学んだ。図書館で各自のテーマに関わる参考文献を探し, 引用文献の書き方に基づいて, レポートを作成することができた。また, 読書感想文をまとめ, 各ゼミで発表し, 意見交換をすることができた。「学生相談室案内」を通してメンタルヘルスの重要さと, 臨床心理士による「ゲートキーパー研修」で, 心理学で学んだことを活かすことについて知ることができた。

【上級生からのサポート】

3年生, 4年生:①ピア・サポート訓練では, 学生サポーター養成講座のメンバーが3~4名ほどでグループを形成し, 各教養ゼミに配属された。サポーターは10回の講義を通して1年生に対するピア・サポート訓練を実施した。また, 前期②PBLでは, 各ゼミに1名のSAが配置され, グループワークのサポートをした。後期は図書館で参考文献を探す手助け, 引用文献の書き方などについて個別にサポートをした。

このような上級生がサポーターとして授業に参加することで, 1年生のピア・サポート訓練の効果が上がり, グループワークがスムーズに進むなど, 学年を越えた交流が促進された。

■ 今後の課題

欠席回数が多い学生への対応を考えていく。

2年次の実験実習及びリサーチ実習のレポート作成に活用できるスキルの学習課題を検討する。

■ 特記事項

今年度も, 心理学科教員が作成した冊子(ピア・サポート訓練のテキスト)を1年生に配付した。

新入生合宿オリエンテーションでは学生サポーター養成講座の学生が考案したプログラムを実施した。

人間文化学部 メディア・映像学科

■ 担当者氏名

(代表): 渡辺浩司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数: 3(一年次担任: 筒本、渡辺、阿部)

ゼミの学生数: 12 名程度

■ 前期実施内容

- 教務委員によるガイダンス
- 学科・大学の施設設備ガイダンス
- 学生生活や学修に関するアンケート調査
- 少人数ゼミ(大学での学びについて、ゼミ学生の交流、SNSの活用について、等)
- 学科教員によるゼミ(研究紹介等)
- デートDV講座
- 教養講座参加

■ 後期実施内容

- 教養講座参加

■ 前期教養ゼミの成果等

受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、学科に関する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。

■ 問題点, 改善点

特に問題は無かったが、西日本豪雨の影響で学科教員によるゼミの一部が中止となった。

工学部 スマートシステム学科

■ 担当者氏名

代表: 伍賀 正典

宮内 克之、三谷 康夫、仲嶋 一、田中 聡、香川 直己、関田 隆一、菅原 聡、沖 俊任、伍賀 正典

■ 実施内容

1 回目(4/9) 概要説明、自己紹介

2 回目(4/16) 授業の受け方、ノートの取り方

3 回目(4/23) 図書館訪問

4~7 回目(5/7、5/14、5/21、5/28) 小グループゼミ

8~15 回目(6/4、6/11、6/18、6/25、7/2、7/23) ロボット競技会企画

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では大学と学科についての説明の後、各自が自己紹介を行った。
- 2回目では基礎的なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。
- 3回目では、図書館に訪問し図書館職員による図書館利用の方法説明を行った。
- 合宿オリエンテーションで実施した数学テストの結果から5つの小グループを作った。この小グループでゼミを行い数学基礎などの学力底上げを行った。
- 8~15回目まで、ミニロボットコンテストの企画・運営・参加を行った。各グループで自発的に役割分担が行われ、レスコンシーズのロボットキットの作成、ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール管理方法、パワーポイントでの企画の発表、競技会の実施と参加等を行い、グループでの協調作業を経験した。
- ロボット競技会企画の課題では 3 号館 1 階のプロジェクトルームを用い、ロボット競技は 3 号館エントランスホールで開催した。このグループでの作業は学生間の交流を深める狙いもあり、十分な効果が出ていると考えられる。

■ 問題点, 改善策, 後期での対応策

- ここ数年、教養ゼミ予算を利用してミニロボットコンテストを開催しており、1年生同士の親交が深まり良い効果が得られ、またこのプロジェクトを中心に学会発表や学外イベントなども実施できている。
- 工作が得意な学生が中心となる傾向があること、全国イベントに出展し学会発表を行うため学生にとって難易度が高いことなどが取り組むべき課題としてあげられる。
- 工作が不得手な学生のスムーズなスキルアップを促すような、教材の開発を提案したい。学科での学習で必要となるマイコンの知識、プログラムの基礎などを取り入れることが効果的ではないかと思われる。
- 平成30年度は西日本豪雨の影響のため、ロボット競技企画に十分な時間が確保できず、競技会自体の完成度は低いものになってしまった。しかしながら、夏季休業中の学生有志の活躍で、三蔵祭へのイベント出展は果たすことができた。

工学部 建築学科

■ 担当者氏名

(代表・1年担任) 伊澤康一、山田明、酒井要
大島秀明、宮地功、田辺和康、都祭弘幸、佐藤圭一、藤原美樹、佐々木伸子

■ 教養ゼミの目的

建築の初学者に対する入門授業として、「建築」で取り扱うジャンルがデザイン・計画・歴史・環境・構造・構法といった理系から文系にわたる広範な分野を扱うことを知ることを目的としている。

自分が建築学科での学びにおいて、どのジャンルについて取組んでいきたいかを決めていくための第一歩として、各教員の専門性を活かした内容の少人数ゼミナール形式によるグループワークによって、「建築」が取組むジャンルや内容についての理解を深め、建築に対する興味の掘り起こしのキッカケづくりとしていく。

■ 実施内容

授業は、建築への興味と理解を深めていくために、6～7名の学生を全教員がゼミ形式で分担して担当し、第1回～14回までを各ゼミ単位でのグループワークをPBL(Problem-based learning:課題解決型学習)形式で進め、学生自らが課題を探ることから取り組みを始めた。

各ゼミ単位での取り組みにおいて、次の3項目を共通事項としている。

- 1)対象フィールドは、備後地域(松永・福山・尾道)をコアに周辺地域も対象に含める
- 2)設定した「共通テーマ」を基に、各研究室で取組む具体的なリサーチ課題を設定する
- 3)具体的に取り組む内容は、各研究室の専門性・特長を生かした視点・内容で設定する

最終回は、ポスターセッション方式による成果発表会を実施し、他のゼミで取組んだプレゼンテーションも聴講することによって、建築で取組む幅広いジャンルと内容を学ぶ機会とした。

今年は、「平成30年7月豪雨」や「北海道胆振東部地震」といった大規模な災害に見舞われた年となり、特に「平成30年7月豪雨」では、備後地域においても土石流や浸水の被害が発生し、「災害」の実情を目の当たりにすることになったことから、『「災害」に対して「建築」ができること』を共通テーマとした。

■ 教養ゼミの成果

グループワークでゼミ毎に取り組んだ成果をポスターセッション形式により発表する際、担当教員による採点の他に学生による相互評価も行った。自ら評価をすることによって、他のゼミのテーマも詳しく知ることができ、発表会に主体的に参加できるという効果があった。

■ 課題

本年度は「災害」というテーマが広範で数多くある問題点や課題がある中から、自分たちが取り組む具体的なテーマ・問題を設定することに苦勞をしていたことから、1年次生という建築の初学者向けに、ある程度の限定した取り組みの方向性を与えたほうが良かった。

工学部 情報工学科

■ 担当者氏名

(代表)金子邦彦

占部逸正、山之上卓、尾関孝史、中道上、新谷敏朗、宮崎光二、池岡宏、森田翔太

■ 目的

1年次生に対し少人数クラスを編成し、初年次教育の一環として、コミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションなどの能力を伸ばす。あわせて、大学での学び、情報工学科での学びについて詳細を説明し、学生自らが大学でのより良い学びができるよう情報提供と指導を実施する。また、学生は、教養講座を受講し、幅広い学問的視野と教養を身に付ける。

■ 実施内容

実施回数 15 回のうち、7 回は、テキスト「大学学びのことはじめ:初年次ワークブック3訂」に基づき、1) 単位、時間割、履修方法の確認、2) 自己紹介、3) 受講の心得(勉強の仕方)、4) 学生相談室、図書館の利用法、5) 大学生活について(課外活動や大学祭など)、6) 資格取得、7) マナーアップ作戦として工学部新棟付近の清掃活動も実施した。残りのうち 3 回はグループワークを行い、5 回は教養講座を割り当てた。グループワークでは、学生を 5 人程度のグループに分け、各グループにコーディネータ役の教員 1 名を配置し、テーマを学生自ら発案してのグループディスカッション等を通して、創造性、自主性、論理的思考に関する実習を実施した。具体的には、

第 1 週 全体説明、グループ分け、アイスブレイク、連想と発想、アクティブラーニング、マインドマップ

第 2 週 グループ内での教えあい、アイデアの結合、論理的思考

第 3 週 スピーチ、聴講

を行った。グループワークでは、教養ゼミの趣旨を考慮し、

- ・学生同士のコミュニケーションの機会を多くとり、お互いの理解を深める
- ・学生と教員が接する機会を多くとり、学生と教員の距離を縮める
- ・コミュニケーション、ディスカッション、論理的思考、文書作成、スピーチを到達目的とした。

■ 成果等

教養ゼミを通して、大学生活や大学施設の利用方法を学んだ。また、少人数のグループにわかれてプレゼンテーションの準備作業を行うことによって、学生同士のコミュニケーションが活発になり、お互いをより深く理解できるようになった。多くの教員と話す機会を多くとることにより、担任以外の教員とも気軽に話せる雰囲気を作ることができた。また、論理的な資料の作成方法の実習、スピーチの実習を通して、基礎的なプレゼンテーションスキルを修得させることができた。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

内田 博志

■ ゼミの学生数

4名

■ 実施内容

- 第1回 福山大学の基礎知識
- 第2回 大学でいかに学ぶか
- 第3回 福山大学をもっとよく知ろう
- 第4回 大学の図書館を利用しよう
- 第5回 基礎教養ゼミ (1) 大学とは — 大学で何を学ぶか
- 第6回 基礎教養ゼミ (2) 大学とは — 大学生としての自覚と責任
- 第7回 基礎教養ゼミ (3) 企画力とチームワーク1 — 大学祭イベントの企画書を作ろう
- 第8回 基礎教養ゼミ (4) 企画力とチームワーク2 — 大学祭イベントの計画書を作ろう
- 第9回 基礎教養ゼミ (5) 創造力を磨く — モノづくりのまち備後に学ぶ、地元企業経営者講演
- 第10回 「7つの習慣」に学ぶ (1)
- 第11回 「7つの習慣」に学ぶ (2)
- 第12回 「7つの習慣」に学ぶ (3)
- 第13回 「7つの習慣」に学ぶ (4)
- 第14回 「7つの習慣」に学ぶ (5)
- 第15回 特別講義「企業でのモノづくり」
- 第16回 向島ドック(株) 工場見学(5月15日)
- 第17回 教養講座 (1)
- 第18回 教養講座 (2)
- 第19回 教養講座 (3)
- 第20回 教養講座 (4)
- 第21回 教養講座 (5)

■ 教養ゼミの成果等

第1回～第4回では、大学での学び方や大学生活の送り方など、大学新入生として持つべき心構えや基本知識を学習した。第5回～第9回は学科共通の基礎教養ゼミとして、大学生としての目的意識、責任感、企画・計画力、また地元企業の特徴について学習した。第10回～第14回は、ベストセラー文献である「7つの習慣」の内容をもとに、大学生としてどのように人生目標を立て、責任ある大人として生きてゆくかなどについて学んだ。第16～第21回は大学主催の教養講座を聴講した。

複合的な要素を含んだ授業内容とすることで、学びに広がりを持たせることができ、初年次教育としての十分な成果が得られたものとする。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

「7つの習慣」に基づく学習は、よりよい人生(とりわけ大学生活)を送るための心構えを身につけることを主目的として前年度に続いて実施したものであるが、受講生の関心の高まりが十分ではなかった感があった。次年度は、授業内容の変更も含め、受講生の関心を高めるための要素を加味することを検討する。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

真鍋 圭司

■ ゼミの学生数

4人

■ 実施内容

1. はじめに、自己紹介など
2. 大学生活、単位の取り方、試験など
3. 大学での学習方法、レポート作成方法
4. 大学の施設、勉強方法など
5. 基礎教養ゼミ(1) 大学で何を学ぶか
6. 基礎教養ゼミ(2) 大学とは—大学生としての自覚と責任
7. 基礎教養ゼミ(3) 企画力とチームワーク(1)—大学祭イベントの企画書を作ろう
8. 基礎教養ゼミ(4) 企画力とチームワーク(2)—大学祭イベントの計画書を作ろう
9. 基礎教養ゼミ(5) 創造力を磨く—モノづくりのまち備後に学ぶ
10. 数学に親しもう。関数について考える。変化率、微分
11. 微分の公式を覚えよう。
12. プレゼンテーションの基礎
13. 微分の問題を解き、解き方を説明する
14. 物理と数学がどのように関連しているか考えよう。
15. 特別講義
16. 工場見学会
17. 教養講座(1)
18. 教養講座(2)
19. 教養講座(3)
20. 教養講座(4)
21. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

大学生活を始めるための基本的なことは十分説明できた。新入生 TG1 は自分がクラス担任であり、合宿にも行ったことから、高校から大学生活へのスムーズな移行はできた。大学の施設案内では図書館を見学した。基礎教養ゼミは学科での新しい試みであるが、クラブで全員が集まって討論などをした。工場見学も今回からの試みである。本ゼミでは数学を題材にして、数学 I で学習している問題を解いてプレゼンテーションし、コミュニケーションを取り合った。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

数学の基礎問題に取り組んだ。前年からパソコン必携化であるが、活用は十分にはできなかった。講演会は豪雨災害のため中止になった。本ゼミのおとなしい学生が多く、学生同士のコミュニケーションが十分できなかったと思う。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

坂口 勝次

■ ゼミの学生数

4名

■ 実施内容

- 第1回 オリエンテーションと他己紹介
- 第2回 キャンパスライフ
- 第3回 スタディスキルズ
- 第4回 図書館オリエンテーション
- 第5回 基礎教養ゼミ (1)大学とは — 大学で何を学ぶか
- 第6回 基礎教養ゼミ (2)大学とは — 大学生としての自覚と責任
- 第7回 基礎教養ゼミ (3)企画力とチームワーク1 — 大学祭イベントの企画書を作ろう
- 第8回 基礎教養ゼミ (4)企画力とチームワーク2 — 大学祭イベントの計画書を作ろう
- 第9回 基礎教養ゼミ (5)創造力を磨く — モノづくりのまち備後に学ぶ
- 第10回 テーマの趣旨説明と設定
- 第11回 情報収集・分析
- 第12回 資料づくり
- 第13回 テーマレポート作成・提出(気象警報発令等による一斉終日休講の対応)
- 第14回 まとめ
- 第15回 特別講義「企業でのモノづくり」:ダイキョーニシカワ(株) 吉川秀明 講師
- 第16回 向島ドック(株) 工場見学(5月15日)
- 第17回 教養講座(第1回, 5月23日): 宮原博昭 講師
『日本の教育と出版 —学研社長流 変化に立ち向かうための心構え—』
- 第18回 教養講座(第2回, 7月27日): 菅波 茂 講師
『グローバル社会における人のあり方 —AMD Aの活動と国際貢献から—』
- 第19回 教養講座(第3回, 9月21日): 植田千佳穂 講師
『まちづくりと妖怪・YOKAI』
- 第20回 教養講座(第4回, 11月15日): 矢吹香月 講師
『消費者の人権 ～消費者被害から考える～』
- 第21回 教養講座(第5回, 1月22日): 田中 克 講師
『森里海連環学が拓く、海から森を想い森から海を想う世界』

■ 教養ゼミの成果等

「環境対策・保全」を本教養ゼミの統一テーマとした。このテーマを取り上げる理由と重要性を最初に説明し、環境問題とその対策に対する探究心と学修のモチベーションを高めることができた。

統一テーマに基づき、学生は自分で関心を持ち探究するための個々のテーマを設定した。学生自身が統一テーマについて調査し選択した個々のテーマは大きく分けて、地球温暖化、森林破壊、オゾン層破壊、水質汚染であった。これら個々のテーマについて、環境破壊・汚染の現状、原理・仕組みや対策の取り組みについて、情報収集・分析・整理を通じて認識を促した。プレゼンテーションとSGDを通じて考察を深める予定だったが、気象警報発令等による一斉休講が一定期間続いたため、その機会を設けることができなかった。

本教養ゼミの統一テーマの取り組みによって、各自が地球環境破壊の深刻さや環境技術の現状をあらためて認識し、これからの安心・安全な循環型社会を目指して技術者として社会に貢献する態度を醸成する意味でも、本学科における学修の意義を再認識する機会になったと思われる。

また、大学での学修に関する技能・態度、基礎教養ゼミを通じて大学での学び等の態度を身に付ける取り組みのほか、工場見学を開催してモノづくり現場の一端を知る機会を設け、企業人(技術者)を講師に招いて産業界でのモノづくりの現状と技術者の仕事と心構えを知るための「特別講義」を開催した。これらの取り組みが、将来に向けてこれからの学修生活をどのように送るかを具体的に考える機会になったと思われる。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

地球環境保護の視点に立って、自然と共存・共栄するための技術開発とその進展の動向を調査して考え、社会貢献の精神を醸成しつつ将来の技術者像を確立する機会を通じて、学生自身が自他ともに未来とこれから始まる学修との繋がりを強く認識して、学修のモチベーション向上に継続して努めていきたい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

木村 純壮

■ ゼミの学生数

3名

■ 実施内容

- 第1回 ガイダンス, 顔合せ・挨拶, 授業実施方法説明, 自己紹介準備
- 第2回 自己紹介, 反省・感想記入, スピーチ, 大学環境
- 第3回 大学生活について 大学と高校の相違点, 大学生活の送り方の注意
- 第4回 学習方法, 受講の心構え, 授業の聞き方, ノートの取り方, 授業外学修
- 第5回 大学とはー大学で何を学ぶか
- 第6回 大学とはー大学生としての自覚と責任
- 第7回 企画力とチームワーク(1)ー大学祭イベントの企画書を作ろう
- 第8回 企画力とチームワーク(2)ー大学祭イベントの計画書を作ろう
- 第9回 創造力を磨くーモノづくりのまち備後に学ぶ 学外講師(地元企業経営者)講演
- 第10回 大学生活と就職, 就職概略スケジュール, 企業情報
- 第11回 就職活動, 就職試験, SPI適性検査模試実施(理科・物理関係), 解説
- 第12回 仕事と資格, 機械設計技術者試験3級, 機械技術者関係資格
- 第13回 時事問題 調査・整理・プレゼンテーション
- 第14回 高校生活と変わった点 将来計画策定 プレゼンテーション 感想発表
- 第15回 特別講義「企業におけるモノづくりの方法」(企業講師)
- 第16回 教養講座(1)
- 第17回 教養講座(2)
- 第18回 教養講座(3)
- 第19回 教養講座(4)
- 第20回 教養講座(5)
- 第21回 企業見学会

■ 教養ゼミの成果等

初年次教育として、大学生活への適応や注意点、基礎力の育成と大学生活の目標、将来計画等をテーマとして取り扱った。第5回から第9回までは、機械システム工学科1年生クラス全体によるアクティブラーニングを行った。テーマは、「大学とは」、「チームによる大学祭イベント企画書の作成」、「モノづくりのまち備後に学ぶ」。毎回の授業において、説明・問題提起、考察、整理、プレゼンテーション、質疑のプロセスを経るようにより、学生が自分で考えること、プレゼンテーションやディスカッションの機会が増えることを重視した。学生も積極的に、関心を持って取り組み、内容の重要性も理解しつつ、概ね良好な評価であった。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

使用目的・方法を明確化して、ICT活用機会を増加する。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

加藤 昌彦

■ ゼミの学生数

6名

■ 実施内容

- 第1回 教養ゼミの説明、自己紹介
- 第2回 初年次教育(大学の施設・設備、大学での授業)
- 第3回 初年次教育(学生生活、卒業後の進路)
- 第4回 初年次教育(機械工学の学習、4年間の勉学)
- 第5回 マナー及びコミュニケーション
(はじめに, “モノづくりのまち備後”で何を学ぶか, 身だしなみ, 挨拶と言葉づかい)
- 第6回 マナー及びコミュニケーション(自己紹介と他人紹介)
- 第7回 マナー及びコミュニケーション(社会人としてのマナー)
- 第8回 マナー及びコミュニケーション(来客対応と客先訪問)
- 第9回 マナー及びコミュニケーション(電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方)
- 第10回 片持梁の強度試験1 ルール説明およびアイデア醸成
- 第11回 片持梁の強度試験2 図面作成
- 第12回 片持梁の強度試験3 梁の試作と評価
- 第13回 片持梁の強度試験4 本作成
- 第14回 片持梁の強度試験5 強度評価とまとめ
- 第15回 特別講座
- 第16回 教養講座①
- 第17回 教養講座②
- 第18回 教養講座③
- 第19回 教養講座④
- 第20回 特別教養講座
- 第21回 教養講座⑤

■ 教養ゼミの成果等

第1～4回で、教養ゼミの意義、大学での勉強方法、生活態度、就職のための準備等について説明し、今後の勉学・生活面で進むべき方向を理解させた。第5～9回では、大学生あるいは社会人として必要な「マナーおよびコミュニケーション」をロールプレイングにより身に付けさせ、その重要性を認識させた。第10～14回では、機械工学専門科目の一つである材料力学のイントロ講義として、ケント紙を使ったコンテスト競技型授業を行った。

■ 問題点, 改善点, 次年度での対応策

第10-14回はアクティブ型授業としており学生の学習意欲は高い。次年度でBYODを使用した強度計算を実施し、学習内容を深める。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

関根 康史

■ ゼミの学生数

3人(当初は4人だったが1人退学)

■ 実施内容

1. はじめに,自己紹介など
2. 大学生活, 単位の取り方, 試験など
3. 大学での学習方法やレポートの作成方法について
4. 大学の施設や勉強方法など(+"フロントマン教育が何故大切なのか?"について)
5. 安全を考えよう(その1)「ペダル踏み間違い事故」は何故発生するか(前編)
6. 安全を考えよう(その2)「ペダル踏み間違い事故」は何故発生するか(後編)
7. 安全を考えよう(その3)「自動車アセスメント」から安全を考える
8. 安全を考えよう(その4)「交通事故の事例」から安全を考える(前編)
9. 安全を考えよう(その5)「交通事故の事例」から安全を考える(後編)
10. 特別講義
11. 基礎教養ゼミ(1) 大学で何を学ぶか
12. 基礎教養ゼミ(2) 大学生の自覚と責任
13. 基礎教養ゼミ(3) 企画力とチームワーク(1)
14. 基礎教養ゼミ(4) 企画力とチームワーク(2)
15. 基礎教養ゼミ(5) 創造力を磨く
16. 教養講座(1)
17. 教養講座(2)
18. 教養講座(3)
19. 教養講座(4)
20. 教養講座(5)
21. 工場見学

■ 教養ゼミの成果等

今年度配属された学生は当初4名であったが、1名が家庭の事情のため、9月末付けで退学してしまい、現在は3名である。(退学した学生の成績は良好であったが、実家(佐賀県)から下宿させるだけの余裕がなくなったことから本人および保証人が退学を決めた)。なお、前期における授業については、全員出席率も良く、特に問題は無かった。授業内容については、最近TVや新聞などで社会問題視されている「ペダル踏み間違い事故」に関する初歩的な実験や、大型車の衝突時の救出性に関する模型実験なども行った。これにより、学生にも、身体を動かすことで、安全に対してより一層の理解を深めることが出来たと思う。また、図書館の見学も実施した。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

今年度の教養ゼミについては、特に欠席も少なく、問題となることは無かった。次年度においても、座学だけでなく、実験のようなことを実施していきたいと考える。また、図書館の見学も実施したい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

中東 潤

■ ゼミの学生数

4名

■ 実施内容

- 【第1回】オリエンテーション、自己紹介
- 【第2回】大学生活について(単位の取得、定期試験、大学施設について)
- 【第3回】課外活動のすすめ
- 【第4回】図書館の使いこなし方
- 【第5回】基礎教養ゼミ(1)大学でやりたいか話し合ってみよう
- 【第6回】基礎教養ゼミ(2)大学でやりたいことを実現するためのシナリオを作ろう
- 【第7回】基礎教養ゼミ(3)大学祭でやりたいことを話し合ってみよう
- 【第8回】基礎教養ゼミ(4)大学祭りの企画書を作ろう
- 【第9回】基礎教養ゼミ(5)モノづくりのまち備後を学ぶ
- 【第10回】キャリアデザイン
- 【第11回】リサーチの方法(テーマ:学生がだまされる危険について)
- 【第12回】プレゼンテーションの方法、テーマ決定、発表用資料の作成
- 【第13回】口頭発表準備
- 【第14回】プレゼンテーション
- 【第15回】特別講義
- 【第16~20回】教養講座
- 【第21回】企業見学会

■ 教養ゼミの成果等

受講生の主な感想は以下の通りである。

- ・グループワークでは一人ひとりが役割を持つことにより、話し合いがうまくいくことが分かった。
- ・本をできるだけ読み、幅広い知識を得られたらいいと思った。
- ・大学がどのようなところか、高校までとの違いが分かった。
- ・図書館では専門だけではなく、様々な教養を身につけることができると思うので、しっかり活用していきたい。
- ・学修支援サービスが充実しているので積極的に利用したい。
- ・グループワークを通じて、みんなの意見を取り入れることが大事だと思った。
- ・自分の意見をしっかり出してグループで話し合うことが大事だと思った。

以上のことから、学生個々で感じたことや得るものがあったと考えられる。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

受講生は本教養ゼミを通じて様々なことを感じたり、知ったりできたのではないかと思う。次年度以降も引き続き同様なスタイルで実施したいと思う。ただし、教養講座に出席しても講演概要や聴講感想の記述内容が乏しい学生がいたので、今後は注意喚起していきたい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

小林 正明

■ ゼミの学生数

4名

■ 実施内容

“モノづくりを楽しもう！”というテーマで実際にモノづくりを行いながらレポートの作成方法、プレゼンテーション方法などを学習した。

- 1) オリエンテーションと自己紹介
- 2) 大学生活について
- 3) 大学の施設、勉強方法など
- 4) ペーパーパラシュートの制作(1) 検討・制作
- 5) 企業見学
- 6) 基礎教養ゼミ(1) 大学とは 大学で何を学ぶか
- 7) 基礎教養ゼミ(2) 大学とは 大学生としての自覚と責任
- 8) 基礎教養ゼミ(3) 企画力とチームワーク(1) 大学祭イベントの企画を作ろう
- 9) 基礎教養ゼミ(4) 企画力とチームワーク(2) 大学祭イベントの計画書を作ろう
- 9) 基礎教養ゼミ(5) 想像力を磨く モノづくりのまち瓶後に学ぶ
- 10) ペーパーパラシュートの制作(2) レポート作成・発表
- 11) 発明工夫作品アイデアノートの作成(1)
- 12) 発明工夫作品アイデアノートの作成(2)
- 13) 発明工夫作品アイデアノートの作成(3)
- 14) 発明工夫作品アイデアノートレポート提出
- 15) 発明工夫作品アイデアの発表
- 16) 特別講義 企業による特別講演
- 17) 教養講座(1)
- 18) 教養講座(2)
- 19) 教養講座(3)
- 20) 教養講座(4)
- 21) 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

本年度は各テーマを実施する前に大学での勉強内容だけでなく学生生活や就職活動などについても説明を行った。受講生から就職活動やアルバイトのことについて質問が多くあり学生生活について理解が深まったものと思われる。前半の教養ゼミでは、大学生としての自覚や責任についての講義やグループで相談しながら進めるSGD形式で企画力やチームワークなどを学習した。後半は、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生は教養ゼミの時間だけでなく講義の空き時間などを使って各テーマに取り組んでいた。モノづくりに挑戦することで創造する楽しさや達成感を得ることができたと思われる。また、本年度は工場見学を実施し学内では得ることのできない体験を学習することができた。受講生はこれからの大学生活にとって大変有意義な機会であったと思われる。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

自分で考え行動することができるようになることをテーマに授業を進めてきた。しかし、積極的に取り組んでいる学生とそうでない学生との取り組み方が異なっていた。SGDを積極的に取り入れることによって学生の学修のモチベーションの向上につなげた。

生命工学部 生物工学科

■ 担当者氏名

(代表)松崎浩明

山本覚、秦野琢之、久富泰資、原口博行、岩本博行

■ 生物工学科教育プログラムにおける教養ゼミの位置付け

生物工学科では、学習意欲を高め、目標を設定し達成することを目的として、演習科目や実験科目を教育プログラムに多く取り入れている。本学科カリキュラムにおいて教養ゼミは、本学・本学科の教育の特徴の理解を深めさせ、一般教養を高めながらさらに幅広く事象に対する興味を喚起する科目として位置付けて開設している。さらに、初年次教育として、受講生が高校から大学の学修・生活へスムーズに移行し、またセミナーや実体験を通して受講生同士及び受講生と教員間で密にコミュニケーションを取ることで教員や友人との信頼関係を構築し、協調性や自主性を育成することを目指す。コミュニケーション力を育成するためにプレゼンテーションやディスカッションなどを積極的に取り入れて実施している。

■ 実施内容

前期

- 第1回 教養ゼミガイダンス及びオリエンテーションの追加(授業履修登録等)
- 第2回 大学における履修と学修 -「大学での履修」や「生徒と学生の違い」を考える-
- 第3回 学生生活について -どのような学生生活を送るかを考える、年間目標の作成-
- 第4回 学生生活について -図書館オリエンテーション-
- 第5回 第1回教養講座 宮原博昭先生「日本の教育と出版 -学研社長流 変化に立ち向かうための心構え-
- 第6回 植物の栽培 -福山大学ワインプロジェクト概説-
- 第7回 スポーツ大会 -ソフトバレーボールを行い、教員、同級生、先輩と親睦を深める-
- 第8回 福山大学と生物工学科を知る -福山大学と生物工学科の歴史や教育・研究の理念を知る-
- 第9回 松永を知る -松永の歴史・産業と松永はきもの資料館の紹介-
- 第10回 バイオの歴史 -古典的バイオについて知る-
- 第11回 バイオの歴史 -現代バイオについて知る-
- 第12回 挨拶、マナー、礼儀について -挨拶、マナー、礼儀を知る-
- 第13回 大学祭学科展示の企画 -グループディスカッション等により展示企画を考える-
- 第14回 前期の学修・生活を振り返って -前期の総括を行い、後期にどのようにするか考える-
- 第15回 第2回教養講座 菅波 茂先生「グローバル社会における人のあり方 -AMDの活動と国際貢献から-

後期

- 第16回 第3回教養講座 植田千佳穂先生「まちづくりと妖怪 YOKAI」
- 第17回 大学祭の準備 -大学祭の展示物の作成-
- 第18回 大学祭の準備 -大学祭の展示物の作成-
- 第19回 大学祭での展示発表
- 第20回 大学祭の総括 -大学祭展示発表の成果、来年度の課題のグループディスカッション、発表-
- 第21回 第4回教養講座 矢吹香月先生「消費者の人権～消費者被害から考える～」
- 第22回 学修スキル -実験ノートの作成法を学ぶ-
- 第23回 学修スキル -実験データの整理法を学ぶ-
- 第24回 学修スキル -実験レポートの作成法を学ぶ-
- 第25回 最近のピックス -最近のピックスの情報を収集し、内容とコメントをまとめる、グループディスカッション-

- 第 26 回 キャリア設計 -卒業後の進路の可能性について知る-
- 第 27 回 キャリア設計 -資格取得やインターンシップについて知る-
- 第 28 回 2年次の学修に向けて -将来の夢を達成するための学修計画を立てる-
- 第 29 回 1年次の学修・生活の総括 -学修・生活を総括し、どんな教養を身に付けたか考える-
- 第 30 回 第5回教養講座 田中 克先生「森里海連環学が拓く、海から森を想い森から海を想う世界」

■ 成果について

- (1) 教員が受講生と緊密なコミュニケーションを図りながら、新入生オリエンテーションの追加(履修登録の指導)、「大学での履修」や「生徒と学生の違い」の解説、大学における学生生活や図書館利用のオリエンテーションなどを指導することで、受講生が高校から大学の学修・生活にスムーズに移行でき、また学修意欲を高めることができた。
- (2) 年間目標を設定することで充実した生活を送れ、目標を達成することで自己を成長させることができたと思われる。
- (3) 古典的バイオと現代バイオを紹介する講義を受け、生物工学に対する興味が増し、学修意欲が向上した。また、最近のトピックスの情報を新聞、テレビ、インターネットのホームページなどから収集する方法と情報の整理方法を学んだ。実際に情報を収集して、内容を要約し、トピックスに対する自身の意見を述べ、幅広い教養を身に付けるためのスキルを修得できたと思われる。
- (4) ノート作成、実験データ整理、レポート作成を指導することで、学修スキルとこれらを行う習慣を身に付けることができた。
- (5) 大学祭の学科展示の企画、準備、展示発表によって、教員、友人、先輩との信頼関係を築け、さらにコミュニケーション力、協調性、自主性が向上した。
- (6) 挨拶、マナー、礼儀を幾らか醸成することができた。
- (7) 卒業後の進路や将来の夢について考え、これらの実現に向けて、キャリア設計を検討し、2年次の学修計画を立てた。

■ 次年度への課題

- (1) アクティブラーニングとして、大学祭の展示発表を実施した。展示発表では、来客者が訪れても、積極的に展示の紹介・説明する学生が少なかった。次年度はさらに積極的に行動するように指導したい。
- (2) 最近のトピックスについての課題は1回だけ提出させた。情報の収集・整理を習慣付け、幅広い教養を身に付けるために、次年度以降は課題のトピックス数を増やしたり、何回か繰り返し実施した方が良いと思われる。
- (3) 福山大学ワインプロジェクトの一環でブドウ栽培の一部を行うシラバスを提示したが、日程や天候の都合で、予定通りには行えなかった。次年度は流動性のある日程で取り組みたい。
- (4) 松永を知るために松永はきもの資料館の見学を予定していたが、日程や学生の授業時間割の都合で、松永の歴史・産業と松永はきもの資料館の紹介に変更した。学生の授業時間割の都合で、次年度も同様の状況となる可能性がある。

生命工学部 生命栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表)菊田安至

山本英二、井ノ内直良、田中信一郎、久保田みどり、石井香代子、西 彰子、村上泰子、近藤寛子、中崎千尋、柴田紗知

■ ゼミ数, ゼミの学生数

学生数:24名 ゼミの学生:4名

(前期はクラス全体で実施し、後期の大学祭指導は少人数制ゼミで実施)

■ 前期実施内容

- 第1回:生命栄養科学科入門Ⅰ 配布した学科に関する資料を理解する(クラス担任)
- 第2回:生命栄養科学科入門Ⅱ 大学生活を組み立てる(学生生活指導、学科ルールなど)(クラス担任)
- 第3回:生命栄養科学科入門Ⅲ 大学生活に関する資料を理解する(クラス担任)
- 第4回:友達、先輩を知ろうⅠ (スポーツ大会)(全教員)※2コマを使用し実施
- 第5回:友達、先輩を知ろうⅡ (スポーツ大会)(全教員)
- 第6回:学生生活に向けて :図書館、保健管理センター訪問と使用方法について(クラス担任)
- 第7回:ナビ①「栄養士について詳しく知りたい」教科書1編1章(石井)
- 第8回:ナビ②「管理栄養士について詳しく知りたい」教科書1編2章(村上)
- 第9回:ナビ③「学生生活における心構えとマナー」教科書5編1章(久保田)
- 第10回:ナビ④「実験・実習における心構えとレポートの書き方」教科書5編2章(山本)
- 第11回:ナビ⑤「授業が始まる前に覚えておこう」教科書5編3章(近藤)
- 第12回:ナビ⑥「授業が始まる前に覚えておこう」教科書5編3章(近藤)
- 第13回:大学祭の計画と準備1(全教員)
- 第14回:教養講座1
- 第15回:教養講座2

■ 後期実施内容

- 第16回:大学祭の計画と準備2(全教員)
- 第17回:大学祭の計画と準備3(全教員)
- 第18回:大学祭の計画と準備4(全教員)
- 第19回:大学祭での調理の準備5(全教員)
- 第20回:大学祭での調理の準備6(全教員)
- 第21回:大学祭での発表(全教員)
- 第22回:大学祭の片付けと記録整理(全教員)
- 第23回:ナビ⑦「7日間の食事を見直してみよう」教科書ふろく(西)
- 第24回:ナビ⑧「小学校・中学校の家庭科で学んだことを復習しよう」教科書2編1章(柴田)
- 第25回:ナビ⑨「栄養素の働き」教科書2編2章(中崎)
- 第26回:ナビ⑩「体の構造と働き」教科書3編1章(菊田)
- 第27回:ナビ⑪「食生活・食文化の基礎知識」教科書4編(石井)
- 第28回:教養講座3
- 第29回:教養講座4
- 第30回:教養講座5

■ 教養ゼミの成果

この授業ではまず、大学生活の送り方・学修方法など、基本的な部分を示しながら早期に大学になじめるように注力した。前期は大学で必要な様々な知識と能力を集中して学び、さらに専門職としての管理栄養士・栄

養士の職種についても紹介し、目指す方向性を示した。大学生活での目標を明確に定め、学修の内容や意義を早期に示すことによって、4年間の学修の基礎を築いた。

後期は、大学祭の企画・運営に学科学生として参加することを通じて、コミュニケーション能力の向上と、人との交流から、課題を解決する能力の習得を目指した。管理栄養士資格を取得するという目標を改めて確認し、社会で活躍するまでの将来的な進路を明示した。

■ 問題点、改善点、次年度に向けた課題

入学時に管理栄養士免許の取得を目指しては不足であるが、学修面では強いやる気がみられない者も少なからず認められる。4年生までの道筋は紹介し、1年生からの積み重ねが重要であることも示すが、イメージできない学生もあった。国家試験が4年目にある事は意識しつつ、学力不足からか自信を既に持てない学生がいて、指導にも注意が必要である。広く教養を身に着けることも大学生の目標とし、様々な機会(教養講座)にも出席を指導した。

学力不足の学生への学修指導や継続したモチベーション維持の取組みは、1年生からしっかり取り組まなければならない。また、一人の社会人としての立場の理解も少しずつ学修できる内容にしていく必要がある。コミュニケーション能力の向上を育てる演習なども考慮する。

生命工学部 海洋生物科学科

■ 担当者氏名

(代表) 三輪泰彦

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数:12

ゼミの学生数:9-10名

全学生数:111名

■ 前期実施内容

- 1)全体ガイダンス:教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験、学習支援等の補足説明、研究者(学生)求められる研究倫理の説明
- 2)自己紹介(自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成)
- 3)図書館の利用法によるガイダンス
- 4)個人面談-学生生活、欠席調査など
- 5)大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 6)大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 7)大学祭の展示企画- テーマの決定-全員でディスカッション
- 8)大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 9)前期定期試験への心構え

■ 後期実施内容

- 1)大学祭の計画-工程表の作成
- 2)大学祭の準備-1 ポスター、看板、展示物の作成、準備作業の役割分担等
- 3)大学祭の準備-2 水槽のセットアップ、観賞魚の飼育、金魚の飼育、展示する魚の採集、展示物の作成等
- 4)大学祭の準備-3 会場の設営、展示物の備え付け、大学祭当日の役割分担およびスケジュールの調整等
- 5)大学祭- 来場者への対応
- 6)大学祭- あとかたづけ
- 7)個人面談-欠席調査など
- 8)大学祭の反省会
- 9)後期定期試験への心構え

■ 教養ゼミの成果等

- (1)スモールグループディスカッションによる少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
- (2)学生生活や教務(履修方法、欠席調査、ゼルコバの操作方法、定期試験への対応など)の情報を学生に周知させ、サポートすることができた。
- (3)大学祭展示企画のテーマを決定するために各グループで提案された企画案について全体討議を行うが、平成27年度からその司会進行を学生にバトンタッチした。今年度も引き続き学生が立候補して2名が司会進行役を務めてくれた。
- (4)プロダクトとして大学祭の展示企画(3つのテーマ、展示内容、必要物品等)についてまとめることができた。
テーマ:1)Dr.ガラルファの美容クリニック・2)プラ板でつくる海の生き物ホルダー・3)金魚すくい(定番)。

- (5) 大学祭を通じて学生同士の団結力(仲間意識や絆)を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。大学祭を通じて友人がづくることができた。一方、同級生に指示する際にはリーダーシップやコミュニケーション力の大切さを学ぶための良い機会を与えることができた。
- (6) 大学祭の来場者(小中学生や高齢者、親子連れなど)への対応を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、知識を全くもたない人(たとえば金魚の飼い方など)に興味を持って理解してもらうためには、何をどのようにして伝えたらよいか、実践することでコミュニケーションを取ることの難しさや、コミュニケーション力を身につける必要性を学ぶことができた。
- (7) 大学祭の水槽などのかたづけ作業では2年生、3年生、4年生が指導して男子も女子も、率先して行ってくれたので責任感をもたせることができた。また、先輩との親睦も深めることができた。
- (8) 学生1人1人に、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点、学科展示に参加した感想などをそれぞれ、まとめてもらった。
- (9) 平成29年度の改善点の一部を今年度にフィードバックすることができた。

■ 問題点, 改善点, 対応策

- (1) 教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では学生実験や会議、出張等によって一部の教員はスケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島キャンパスから本学に移動するため、教員の負担が非常に大きい。
- (2) 今年度も昨年度と同様に積極的にテーマごとにリーダー、副リーダー、書記に立候補し、その運営に指導力を発揮してもらった。今年度は、しっかりとリーダーシップを発揮する学生の割合が顕著に増えた。しかしながら全体で3テーマあることから1テーマあたりの学生数が30~40名と非常に多いので学生リーダー、副リーダーだけでは展示企画の仕事を進めていくのが難しいと感じた。今年度から1テーマあたり、3グループに分けて役割分担を決め、グループごとのサブリーダー、副リーダー、書記を中心にして運営を進め、テーマのリーダーが各グループを統括するようにした。
- (3) 大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員や各サークルに所属しており、大学祭の期間は執行部やサークル活動の仕事にそれぞれ専念してもらった。その際、担任にその旨、報告・連絡させた。一方でテーマごとに一部の学生の負担(準備や当日の展示運営)が大きいことも問題となった。
- (4) 大学祭やスモールグループディスカッションにおいて学生が主体となって取り組むことができる環境づくり(目標をしっかり理解してもらい、学生の意見や考えを発表しやすい雰囲気をつくること、積極性を引き出す手法を考えることなど)を継続して行っていく。
- (5) 昨年度と同様に、学生からのアンケート調査を行い、展示企画の問題点、反省点、今後の改善点を次年度の教養ゼミにフィードバックしていく。
- (6) 海洋生物科学科の3研究室(海洋環境保全再生学研究室、沿岸資源培養学研究室、食品衛生学研究室)による研究紹介とジョイントした。また、海洋の学生が主に参加している海洋生物研究会による「近隣の川や海に生息する生き物の生態展示も並行して行った。1年生は4年生の研究室紹介や海洋生物研究会による展示に興味を示し、先輩達の研究内容を積極的に聞く学生も一部にみられた。少しずつ学年間の交流が円滑にみられるようにアクティブラーニングを通じて「学年の縦のつながり」を構築していきたい。

薬 学 部

■ 担当者氏名

(代表)山下純

(担当)井上裕文、田淵紀彦、岡村信幸、長崎信浩、松田幸久(薬学入門担当)

上敷領淳、広瀬雅一、片山博和、前原昭次、五郎丸剛、木平孝高(クラス担任)

■ ゼミ数, ゼミの学生数

新入生全員に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実施内容

1 薬学入門Ⅰ(担当責任者:山下純)

学年を3つのクラスに分け、各授業ではクラス単位でスモールグループディスカッション(SGD)を行い、薬学入門担当教員(2名)ならびにクラス担任(2名)がチューターとして指導を行った。

※日程・方略は別紙参照

2 教養講座(担当責任者:山下純)

教養講座(5回)を受講後、レポートを毎回提出させ、クラス担任が指導を行った。

■ 教養ゼミの成果等

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・学生－教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・能動学習のための動機づけ
- ・問題解決能力の向上
- ・挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点, 改善策等

・学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。

薬学入門前期 (平成30年度)

別紙3

4月			5月					6月					7月				
日	月	曜日	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
1	日					1	金										
2	月					2	土										
3	火					3	日										
4	水					4	月										
5	木					5	火										
6	金					6	水										
7	土					7	木										
8	日					8	金										
9	月					9	土										
10	火					10	日										
11	水					11	月										
12	木					12	火										
13	金					13	水										
14	土					14	木										
15	日					15	金										
16	月					16	土										
17	火					17	日										
18	水					18	月										
19	木					19	火										
20	金					20	水										
21	土					21	木										
22	日					22	金										
23	月					23	土										
24	火					24	日										
25	水					25	月										
26	木					26	火										
27	金					27	水										
28	土					28	木										
29	日					29	金										
30	月					30	土										
31	火					31	日										

薬学入門前期方略(平成30年度)

別紙4

方略	到達目標	日	細目	学習内容	場所	人的資源	時間(分)	備考
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。 【今心にあること】 希望、期待、不安を認識する。	4月9～11日 (月-水) 3-4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	1-1	講義 1. 薬学入門について(約15分) 2. SGDについて 3. KJ法について	研修室1	井上・長崎・田淵・ 松田・山下・岡村 (クラス担任)	35	資料配付・作業説明
			1-2	SGD 「今心にあること(希望、期待、不安)」を 抽出(KJ法)	研修室1	担任	15	資料配布:課題(1) 「今心にあること」をタグ シールに書き出す
			1-3	SGD 「今心にあること(希望、期待、不安)」の 島とタイトルを作成する(KJ法)				
			1-4	SGD 今日からできること(今後の行動目標)				
			1-5	発表 発表(各5分)・総合討議(各15分)				
2	【薬とその適正使用】 1. 「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2. 種々の剤形とその使い方について 討議し、概説できる。 3. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを 討議し、概説できる。	4月16～18日 (月-水) 3-4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	2-1	講義 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 について(KJ法)	研修室1	井上・田淵・山下 (説明) (月、火、水)	15	作業説明
			2-2	SGD 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 について抽出(KJ法)	研修室1	担任	15	意見をタグシールに書き 出す
			2-3	SGD 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 の島とタイトルを作成する(KJ法)				
			2-4	発表 発表(各5分)・討議(各5分)				
			2-5	調査 調査 SGD 疑問点についての調査とまとめ				
3	【ヒューマンズ・コミュニケーション】 行動変容のための役立ち感と幸せに ついて気づきの学習をする。	4月21日(土) 1-2時限	3	講義 1 身体とこころの体感・気付きのワーク 2 グループワーク (お友達のを借りて問題解決)	研修室1, 2	菅 (担任)	180	発表:横造紙

4	【薬剤師の活動分野】 1. 薬剤師の活動分野について概説できる。 2. 自分の将来の進路とその仕事内容について討議する。	4月23～25日 (月-水) 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	4-1	講義	「薬剤師の仕事の種類 (卒後の進路と仕事内容)」 について	研修室1	井上・田淵・山下 (説明) (月、火、水)	15	作業説明	
			4-2	SGD	「薬剤師の仕事の種類 (卒後の進路と仕事内容)」 について抽出	研修室1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表	
			4-3	SGD	「薬剤師の仕事の種類」についてマインドマップの作成		担任	40	横造紙にマップを作成	
			4-4	発表	発表(各5分)・討議(各5分)	研修室1,2	担任	50	発表:横造紙	
			4-5	調査 SGD	疑問点についての調査とまとめ	研修室1	担任	60	書籍を利用して調査	
			5-1	講義	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事 (仕事内容と係り合い)」 について	研修室1	井上・田淵・山下 (説明) (月、火、水)	15	作業説明	
	5	【薬剤師の活動分野】 1. 病院ならびに保険調剤薬局における薬剤師の役割について調べて討議し、医薬分業を概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について討議し、概説できる。 【事前学習】 1. 見学施設への質問内容について調べ討議する。	5月7日～9日 月-水) 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	5-2	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事 (仕事内容と係り合い)」 について抽出	研修室1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表
				5-3	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事」についてイメージマップの作成		担任	40	横造紙にマップを作成
				5-4	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)	研修室1,2	担任	50	発表:横造紙
				5-5	調査 SGD	疑問点についての調査とまとめ	研修室1	担任	60	書籍を利用して調査
				5-6	SGD	見学施設への質問内容をリストアップ	研修室1	担任	20	ホワイトボードに意見を書く USBメモリー持参 自己紹介票の雛形配付
				6	講義	1. 基本的なマナー・コミュニケーション 2. 薬剤師のやり甲斐	研修室1, 2	山中 (担任)	180	レポート提出

自己学習		調査課題：見学施設への質問内容や専門用語について							
7	7-1	講義	訪問時の注意点や事前連絡の仕方について	研修室1	井上・田淵・山下(説明) (月、火、水)	10	作業説明		
	7-2		訪問時の注意点や事前連絡の仕方について討議	研修室1	担任	30	ホワイトボードに まとめる		
	7-3	発表	発表(3分)・討議(5分)			60	発表:ホワイトボード		
	7-4	DVD	発表準備(注意事項や質問内容など)	研修室1	山下/田淵(説明)	40			
	7-5	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方や見学施設への質問内容を再討議	研修室1	担任	20			
	7-6	SGD	質問票の作成			20	質問票の雛形配付 USBメモリ一持参		
事前連絡		見学施設(指導薬剤師)へ連絡し、事前に訪問時間等を調整							
自己学習		質問内容や専門用語について充分学習しておく							
8	8	SGD	各科目の問題を個人およびグループで解答する。	研修室1	井上(説明) 乗学入門担当教員	180	作業説明 資料の配布		
	9A	見学	体験学習	病院 薬局	指導 薬剤師	60~ 240 60~ 240			
9	自己学習		討議・まとめ・発表準備						
	9B	SGD	発表準備 後期実習施設選択	研修室1	担任	180	ノートPC 施設選択票の配付・回収		
	9C	発表	発表・討議(各5分)	研修室1	担任	180	クラス別公開発表会 (施設単位)		

大学教育センター